書類從

三百二十五

農商務省圖書共第三九九號冊
消印

太政官文庫
和書門
類 八一七一 號
函
架
冊 六六五

内閣文庫
和
八一七一 號
六六五 冊
二六二 函
四 架

内閣文庫
番號 和 8171
冊數 665(407)
函號 262 3

糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

群書類從卷第三百二十五　　檢校保己一集

日記部六

光孝法皇日記

文安二丙寅年正月一日天氣悠然屬陽春らゝかに

例ふのせくゝ　　の條の社頭よまうでゝ講をへて

一　二首

社頭春

ゆゝしき神たちあつまる代々の春にあふぎてこそ祈りそめけれ

社頭松

春も四つのとせをかさねて神代あふうん

社頭祝

あをゝ松ちもたゝ雪をかぶれねうひのまにみゝをふへし

方陽景鮮七社法楽歌

八幡

八幡山たゝをかさねぬるまいあひて、ぬさとそふ神の恵とあ

玉津嶋

あしはらのあしのまもつゝ紀神と猶そはつこむ

小松

出さんとゝゝゝ梅のはなをそこゝさゝゝ神にあむさん

住吉

すみよしの松の恵ゝ紀ハ君をまつへくゝゝゝ

紙菌

猶ゝ紀神のそはつをそはまに紀ハ君もたゝく

稲荷

稲荷の山のゝ木松のゝゝ雪にあひくゝ雪にそはゝ

日吉

神の名ゝ日吉をゝ山をゝて雪のまの白やゝ世もゝ

及添更講頌讃師序

講師春孝

古今集授受序春部上於神お讃ゝ恵ゝ及数刻終

病ふ一睡

義乃國兵衛庄兵衛尉冬合還補仍一昨日御
下知旨於等拜領之時細川右馬助入道家龍
中御

あくる廿三日のまつりもとけ代乃ちのみ代
迄一至日世弱繁昌怠刻世相行に即返しを
殊更書状ふたつ中あまひとへ
立四人るうのとの松乃ち相ふへきみ代の稚くすゑ
只今乃勝者上世代ちさるうかと中行さ今日
まこ管領職乃住端ゆて室町殿は女中方乃御

あひまつひさいちひかとも物中に仕あ
是一昨日乃返哥下句ちの物ちの方のすゑをうけき
こ行ちんとしうこちとは方まちうはいまに治定
したく存ゆ不送ちの方ど云文書をとる金言の
せやて世下句に定むちを殊音にて行を八角姫の
歌を出ちとこ同ゆおこ示仍庭松樹久ど云歌
出ち三善常房仮尾義大夫書来て祝詞を拵典厩音
信ち義ちとは乃無昌御心ちうゆ行ちうゆて拙く
祝ちう南ちう中ちこ
二日寒嵐吹雲霧晩頭西天ちひて織月を表に

[illegible]

夕ゆふの月はさしもみくもりて雪に白ふかき[illegible]

と歌俊正ら儀紙頭

廿日漢雲還晴民部少輔顕経卿入道素性公元秀

宮道親忠以下[illegible]人来

廿日天氣快晴叙位執筆師卿

神色殊光[illegible]

今日も日々[illegible]人来て述祝美業[illegible]

宋朝之若為教[illegible]

[illegible]

[illegible]

一修法もせらに
祈願
九日白雲散乱つとめて又まうて侍り
これ神に雨をいのるに雲なくつくまうてまいり
汐汐素服もらすにまゐりて三十六首うたよ
くよみつらに
春天象
はるの空のせいのはるよりこそ雲なかりけ
夏人事
夏のてりはつくやまはのねよけよりそまいそも
秋人事
月ぬけて雲とはのはるくもはのれ光の秋とあるか
冬新拾
おさへうるおうきの波とあるよりの浦まれ雪の夜
恋地儀
あのとてあなたのしるしうるはるそれ
七度還補其業
世祿〻但設り平中納言の古今ハ〻あれ
あるしの地図名うり計におのひとせ侍りそつ混
孔事也

人数正徴孫作　卜絶入道素欣　沙弥常勲
正覚　知蓮　薬系氏世世外一族ハ為九
十日又まうて侍しにはるかに歌よみて金ちかく
しに夕月数を奥侍ることを勧うす富みて主の
宗ことえんにおほし名れハ六系度ため半系天
神国情堂三系八情文系を巡礼
さらぬへる夕の月を面新もうすまぬ主の富の松
十一日七日春ちにみちぬることヤ上年始ハ
なとなりて
いく主も狩ちうぬちうぬ多ん子代の境を神もちて

十二日読経祈名必常
十三日丹生高野詣二首金始よ
霧知主
はるかなる主のこの乃主をへこう系多まさて立ちそ代
松殘雪
狩ぬる富さへあるうす孫多ひさそあるる主ぬ松の元
雪の神祝
ちるちふ乃ようて神を狩光主ふ代ら受
當座五十首よ
羽霞

あまの戸を明る光ハ夢まもる代ゝもちる花

婦恋

誰ゆへかおもふ袖の露ならぬ忍ぶ草にもかゝる

演歌

和哥所詠にあまたしるしあるを歌の数くゝりをのゝ所

人数出題事 講師同講師 實能　中務大輔

春歌卷九　民部卿顕經　法橋長全

法橋經長　園雅　散位為數　沙彌常勲

沙弥元康　藤原重隆　源貞信　藤原正信

沙弥智蓮　藤原經俊　[redacted]　宮道秋忠

宗順　念阿以上共二人

十四日讀經称名如常自宝池院法華堂法樂

二十首題出不重則位進之長全法橋二十首題

不重同深草之自分之和哥深制事申

十五日勤行如毎日堂他事心静吟和歌唱称名

十六日朔天泰寺所殺ハ、この内ハ哥所事大方度同

卷数進入晩頭人〻来て五十首哥ゝ作り附

當出家

あれもこの出家のふるの春ゝやこゝにのこる雪ゝ

遠翁花

みちのくにたつこの奥も桜あるこころのあるとそるけさ

石不詠

ひたの田のつらなりてひとを安倍の乃なかふ人を数ふる

題不 講師同 講師 去年参云

人数是詠 春話参云 素孫 去年入乃 云安 安田入乃

元康 内蔵入乃 国雅 紀元盛 安田勘解由 源久国

常継 矢野入乃 蔵原元康 内蔵 紀元家 安田 常安 道イ 去年列入道

嗜有 在国入乃 二善元秀 高安 蔵原元賀 源元仲

橘元家 矢野 奥行以上十八人

十七日 勧り如常毎春くれ例めかせ〳〵七和ふて

四百度法ふ中也

十八日 二善為数もとしく月次会始

都早春

雲さそ〻ぬ心もちくかもしの数の野人ひ去そ〻ぬ

梅薫風

匂ひくる風をうけて梅花たる〻ひ〻ひ陶義

老の世祝

いとへのくそ紀みちを安倍代のりこさ

當座十五首に

寄若春

のとうらの春をこそ見れとうたはれたりし

器早蕨

誰かけさ春のとうらに春をもとめ来て蕨の手折る

歌題

かすみなほたのめもとけぬ雪とうち入て逢の子はゝ伯をなし

歌題

いつよせんうれしきかぜのしるべ大うら浦の底風のつたえ

海村烟

もしほやく浦人ゝ民ゝ煙やこゝ雲ゝ立ゝ

題事 讀師 同 講師 貞基

人数 忌部 永祥 飯尾肥 お入 附題 左京 古文 園雅

貞基 布施 民部 源基 秋岳 上野 源持子 富永 伯 陸亮 為数

常熟 貞秀以下数案

十九日中院上人来て観経講讀信心弥所終日勤

行 代事男已上進代愛

廿日 島山 伯理 古文入 家 月次会始り

初春松

今日しも花の日よりを去に初ゝ心ゝ千ゝの松乃下ゝ

對花

なれさらぬ山ゝ人ゝ人ゝ色ゝ春ゝ見ゝる花の陰ゝ雲ゝ

雪

いとよさてふにもかさ松のくに程雪降る秋風を御

樣衣

旅さ寝さ洗濯すとの麻衣夕日明るれの衣ようけ雪

名所雪

物ゝの山雪孔坂屋の板屋さ久しさ見もあるふるよる

樣

為ゝにのふゝのの色ゝ式ゝ見もつゝあゆ雪ゝ

出題花雪井中網て入る　侍所同　講師宗砌

人数花雪井　雪至一名左京夏　市　正徹

春日二位入道　島山次郎　国雅　賢盛

常勝　心惠　正晃　恩仁　忠誓　常佐　智蓮

宗砌以下数案

題歌中雪雪及投懸ゝ和ゝ題一首ふ是俄可詠

ゝ分題ゝ春ゝ密ゝ所ゝ雪独雪ゝ講師宗砌初

春ゝ松ヲヨメル和雪ゝ読ゝ心中断腸賢盛朴

楽新ゝ樹ゝうゝゝと詠也　僅ゝ雪ゝ也

世一日兵庫助貞親ゝ月次雪始ゝ

初春見鶴

春ゝ来ゝ花ゝ雪ゝ成ゝ鶴の子代ゝ雪ゝ雪ゝ松ゝ

歌合百首和歌

霞春夜

（寄初度出現）

いくとせをかすみ春夜にかたもつるなほあるかの代乃もり来

行久恋

はるをかすとたとへてふ武蔵野の松乃をとたちゆくしをと

名所松

今日もまたとはるかすふ武蔵野の松乃をとたちゆくしをと

兼日題代人歌題事は今自今者おなじ

如此陰殆こ義や

廿三日一遍左京大夫教祝歌より月次会始

竹近年友

ちとせのとしをもかしらの代のみとなるこの春はくれ竹

當座百首

野雲雀

夕日かけ雲のうへ人ひとりなくうらのしまかさ

寄水恋

おもひのとこをはしたにくるしくかくれあるなみだ

名所鶴

かへりてしたもうらの奥のたつのこもりつぬさ川の方に流れ

恋雑事

国立公文書館
National Archives of Japan

遠いこころの有様　天満宮社家　菅原道真

八月廿五日　この歌　ひとりかの庫に人

顕忠卿　藤原顕忠卿

のりなりけりの心をよめる　詠人知

神祭

ゆうだすきかけてのりのみちにいのりをかけてたのむ

題知

ほのぼのとあけぬるそらのつきかげ

題知

ほのぼのとあけぬるそらのつきかげ

題知

ほのぼのとあけぬるそらのつきかげ

素孫（右平入）　智安（安田入）　元盛（安田解由）　元康（内藤入）　橘元吉　釈意

薬師寺元明　勅下供奉人

供奉日　六宮院つ法ゆて社頭に参ぬ

らんとて入りこさ

この門に神をしるしるひ元をめ代ともたん

當座連平百韵あり及曉て延出

供七日　御弾元康来自典厩勅撰清書事談合為

仕来ら

供九日　仕大臣

二月一日勅撰如無和大臣改書名家正身不百

首歌の内題を首給つる付

春山

春の日は名に知ぬ神を春るに光をみに光をみる

秋河

誰ゆ今あるその河原に小しの数もたらて月をうらん

妹社

ちはやぶるいろやいうるに社の落葉重ねぬ

冬風

冬ふかう吹ぬ日ぬ野辺の草本ら枯ぬ夕ぬ

蔡花園の雜波乃梅壁に付て細川右馬頭
入乃れすと人一枝をゝり侍しを侍
この花いかゝ乃ゝ
返し
ゝ乃ゝ花を乃つの梅ゝに
十七日云庫助貞祝りとまゝく有次乃ゝ
夕春面
春乃ゝ
名不花
ゝ

行方忘
う乃ゝ
當座三十首に
春歌
春松
春夜
あ乃ゝ
乗信

月にはなを花の浪のうち数をひとらの色をもへらぬ色

題志帋　侍所同　講師親忠　人数如先序

十八日二番為数りとして月次之首尾

河柳

青柳のうちの糸をや立田川こうあるれかしらを

長月

なをの色はなをなみたてしすじをあをとなをれ月代

恋歌

[redacted]うさ身志のうあるとうふれてしなってん

世之宮実相院准后住吉にまうてあて社頭月を

の枝にはをとしれあるてひとつ侍をとて侍りし

月にめくむ神しなのちるれはなをとてそをみるあをの

はを返し

あををこうふせのくもにあらぬ神をとをとれ恵侍も

世之日一番左京大夫教親朝臣月次之首尾

俳諧

あ地をとはおりふをとをとも侍の時まを為なのをう

初花

さかはのをやをにまくをと横雲をとを風をあひをあけく

紫色

[illegible]

菊屋百十首序

早蕨未遍

[illegible]

夕落花

[illegible]

[illegible]

雲浮野水

[illegible]

水江芦

[illegible]

歌志帝懐帥同講帥寿の人数如[illegible]

石清水社奉納百首に細川懐波守[illegible]

梅薫袖

[illegible]

[illegible]

[illegible]

早秋霧

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題之事　僧侶同講師元秀人数如先
今日吉日ニ付福寿典厩養子管領
そもしへさとり中ゝれ行し程よ徐所大概ゝ
めつゝこ仍今日の哥こゝをしひをあらし行ゝ二十首
ゝ題法ゝゝて
桜花
櫻花明いろやゝゝゝん月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
十二日　蔡花園よまゝて法華の法師宝来ゝ
神殿ゝの花を只独眺ゝて
あゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

十四日黒谷の宝地ゝゝに三宝院門主をまゝて
まつゝるゝゝ宝地法師皆門下人ゝゝ
もゝゝゝにむかい行時海
夕日新うゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
十八日ニ善為数もゝて月次ニ首に
遠寄花
ニゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
花十首
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
桜花

[illegible]

橋元右兼師[illegible]四[illegible]集すめ[illegible]

法楽百首

子日

[illegible]の日せ[illegible]春も[illegible]しめ松の神やしるしにこゝら[illegible]

亀橋

[illegible]

七夕

あるの河[illegible]

[illegible]

[illegible]

仏石

[illegible]

初恋

[illegible]

祝言

[illegible]

出題事

左政大臣歌月次續百首に

三月二日

今日こそや流れも清きみそぎ川
　　立秋
秋はけふ三つの市へうとき霧もうらかぜ袂ふるなり
　　塩大
いさぎよく秋やのうらぶくひて実のえをとりてへりや
　　山
たなびくふ風の袖も立ちかれて秋ぬけぬるとく
　　親王
ちのこれ花をふ竹のちのみやまもあるもいつて見へる
廿八日一色左京亮教秋家まて月次之着句

水色瀬踏
流れすむ秋の光かは咲つらし行末のくさのけうあるぬる
　　山家暮春
この春はいつもりらんなほすむしかへる春はたちひて
　　遠野何方
移ぬる秋も春のうちも遠の雲もそこはとあさ晴ぬて
　　當座五十首
　　暮春天
ちりそめ雲の笑しまさりうれをも春はとあへとも
　　暮春城

あるにはすむしたちの夕附日うらくすみてあきのみゆる

暮春車

小車のうくるに日数よ春も弐月花の帰りもいかゆかもとも

当春旅

我のみそあくまこの月きの者ハ病ゆへ先

出題帯 清師 同 講師 秀行 人数如先 此舎

果て法師智蓮座の歌盛に侍と立ち書く見

侍りとて人〻一首ずつ侍時

かへるさといふ事をまのもとにて書のみちるみ

廿九日摂元古人のもとの侍りしかて三十首

題不望せ[illegible]ハ用ふ[illegible]て侍

初春歌

春といへハ我のみまして天地[illegible]

契稲恋

こゝろひとつにつかもるこゝろ文るまてといちこゝろ侍に

暁遠情

光の浪ふるとハ花の枕のハまもるひとりかのうら風

秋元筆をのくこゝろ

同日智蓮歌合 一座雑歌

松風よ[illegible]

返し

いろをかへぬ[illegible]

四月一日勤行始和歌

三日石清水[illegible]六首歌[illegible]時

春朝

白雲のたゆたに移る朝ぬれに春さくまれる春の八重山

夏夕

月[illegible]出る[illegible]夕[illegible]の山かぜ[illegible]

秋夜

[illegible]方やの浦[illegible]

冬曙

[illegible]

恋心

[illegible]

神祇

石清水[illegible]心[illegible]神[illegible]

[illegible]

[illegible]

首夏祝

歌[illegible]

初夏

今そしらぬのれいの多和まるひくらのあけむとふ鶯

暁更鶏

時なしの八ちまたもおきまれる代ことや神よつらん

題志平 法師 同 講師 元盛 已刻 泰秋 お酉刻

坂京 宝号お 橋本 法楽 歌 定 逆 講 頃

七日 三善 為 秀 飯尾 倫中 ものとまてちしめて 三十

首 平 定 信 時 庭 鄭 躅 賞 翫

首夏

友ことてもてれほふ思つしハ代の玉をおとそらる

早苗

つたの葉ことあ氏やすそハの田井に早苗もらん

橋川

月ゆや入あ西のいりとに山あひ出うゆひ大乃み

賛 志

我ゆにあとあ浪いこそねも深ぶく猫や素のまい屋

久 恋

繋しも袖ゆ山の夏しまそけよ乃ゆ氏ゆ氏ゆ

水郷

あら四氏ゆ乃つの乃もを渡や大ほの乃ゆ氏ゆ氏に

十二日伊勢兵庫助貞祝ありとて月次歌所より

賀茂祭

いつまでかいつとの宮ぬ人もかさしをかさしまつらん

海暮時雨

ねくらとはもとりとりれもいねあくるかたこそ武

蔵の国歌

あさぢふにはひてねんにのこりゆく月まのくさむらの露

南庭三十首より

郭公頻

世こちかりけれのをちこちなるねはをあたなくさ

名所月

明りとはのさやかにあらそ秋の夜の月の光

述懐歌

ものもこのもしきもなくとしをふるあはれ

時阿弥陀仏

月をこそ仰ぐ法のもとに

雲雀

あさぼらけ雲ぬ雲雀の心をもうちの花芝にそまるらん

遅日

あいもしんのちかれ咲ちにのとけさまれけを

恋歌

[illegible]
世一日高山右近へ仏室にて二十首歌詠
[illegible]

欣興

庭新樹

[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しのぶあるひは待らん　おなじうそ　[illegible]

返しあるひは待ひつるを待ると

夏のつもあるひと待ふ今日さへ人を心にかけ待て

世を日一遍に京去夫家身に　[illegible]

山形樹

[illegible]

暁時雨

心あれや曉おきをとりあつめ　[illegible]

立石寺

[illegible]

當座五十首より

忘早苗

[illegible]

野徑夏草

[illegible]

[illegible]

湖水眺望

[illegible]

夕雪法

いかなる雪かつもるらん法の師の
出題寺讃師同　講師寿行人数如例　高山図作
二月の末雪はなはだ降遠例や今年の雪を
おもひやりて作りかへ人々出仕の
ものなし出仕作り
おもひやる雪の花ぞ散りまがふ春の園の
世の日高山俊はなし　栄良　歌は月次に首に
卯花宴
花ぞ散る春の里人うゑぬ苗の
早苗ぬ

對月待郭公
ほのぼのとあけもやらぬ小野の
来不鳴郭公
うつるとはいかなる物ぞ秋の夜もむなしく
當座五十首に
五規作方
かたぶく月を定めぬ
雲間一村雨
やどりなれ月の影を
松作友

ふるへてもあるかきこんの者とや松のうらとかなしてもなん

徑苔

いとかしたりともいかもあるかもこの苔にあるそ

心静延壽

しるしなのたにかたいとへとかたもかのかの浦よりもあり

題左兼日記井中納言の左衛門督殿読師日

講師参ける人数如元

玄與日記

文禄元年七月十日薩州鹿兒島より近衛前

左大臣信尋公御帰洛也黒船玄与令供奉御船海上

に出ハ鹿兒島の傍俗船よりはなしつるしつ

送りをりの十日ハ曉景に大隅濱に御乗船

刑部卿法眼尉不出猶鉢ハ分ハ十一日龍伯

鉢ハ御預ハ令給ふ

兼題松蔭新涼　松

立入る蔭こそあれ松蔭ハ涼しさ秋のやとる四人ハ

龍伯